（毎月１・15日発行）　防　衛　ホ　ー　ム　２０１３年５月１日　第８５８号　（6）

中央即応集団

Central Readiness Force

ともに先駆ける　未来へ

～日米連携の強化　座間駐屯地へ移転～

中央即応集団司令部庁舎

第１空挺団

第１ヘリコプター団 編隊離隊

第１空挺団

国際活動教育隊

中央特殊武器防護隊

対特殊武器衛生隊

中央即応連隊 ウェポンリテンション

【部隊章】
日本地図及び赤の輪（日の丸）で国内任務を表現し、赤の輪（地球儀）で国際任務を表現しています。月桂樹は任務完遂及び隷下部隊の特殊機能を表現しています。

部隊説明

中央即応集団司令部
司令部は国内・国外の部隊を指揮します。

中央即応集団司令部付隊
司令部付隊は、司令部の管理・業務支援・通信を行います。

第１空挺団　主として落下傘降下により、各種の空挺作戦を遂行する陸上自衛隊唯一の空挺部隊であり、最精鋭部隊の一つです。

第１ヘリコプター団　大型輸送ヘリコプターをはじめ、多数のヘリコプターと固定翼機を保有する陸上自衛隊最大のヘリコプター部隊です。国家的行事の際には政府高官等の要人空輸も担任しています。

中央即応連隊　国際平和協力活動等の先遣部隊として行動する日本唯一の専門部隊です。

中央特殊武器防護隊　陸上自衛隊最大の特殊武器防護部隊で、生物剤や化学剤により汚染された地域を偵察し、無毒化します。

対特殊武器衛生隊　生物剤感染患者の応急治療を実施する部隊として陸上自衛隊で初めて編制された部隊です。

国際活動教育隊　陸上自衛隊初の国際活動に係る教育を専門とする教育部隊で、全国の隊員に対し、国際活動に従事する上での様々な教育及び部隊が実施する訓練の支援を行っています。

特殊作戦群　ゲリラや特殊部隊の攻撃に対処する陸上自衛隊唯一の特殊部隊です。

UNDOF（国連兵力引き離し監視隊）1996.2 ～ 2013.1
UNMIN（国連ネパール政治ミッション）2007.3 ～ 2011.1
UNMIS（国連スーダン・ミッション）2008.10 ～ 2011.9
MINUSTAH（国連ハイチ安定化ミッション）2010.2 ～ 2013.3
UNMIT（国連東ティモール統合ミッション）2010.9 ～ 2012.9
UNMISS（国連南スーダン共和国ミッション）2012.1 ～
DAPE（派遣海賊対処行動航空隊）2009.6 ～

CRFの歩み

19年3月28日　ＣＲＦ編成完結。初代司令官・山口淨秀　陸将着任
3月30日　国連ネパール政治ミッション（～２０１１年１月）
3月31日　朝霞駐屯地に於いて発足式典挙行
7月17日　新潟県中越沖地震災害派遣
8月24日　ゴラン高原派遣輸送隊（24次隊）
9月12日　インドネシアスマトラ南部地域地震対応
10月29日　中央即応集団演習
20年2月4日　自衛隊統合演習（指揮所演習）
2月17日　ゴラン高原派遣輸送隊（25次隊）
3月26日　中央特殊武器防護隊（新編）
3月26日　中央即応連隊（新編）
3月26日　対特殊武器衛生隊（新編）
3月26日　第１ヘリコプター団（改編）
6月14日　岩手・宮城内陸地震対応
7月6日　洞爺湖サミット支援
8月1日　第２代司令官・柴田幹雄　陸将着任
8月21日　ゴラン高原派遣輸送隊（26次隊）
6月23日　国連スーダンミッション司令部要員派遣（～２０１１年９月）
21年2月21日　ゴラン高原派遣輸送隊（27次隊）
5月16日　派遣海賊対処行動航空隊陸自要員派遣
7月21日　中央即応集団　演習指揮所訓練
8月21日　ゴラン高原派遣輸送隊（28次隊）
10月5日　インドネシア国際緊急医療支援隊派遣
11月5日　自衛隊統合演習参加（実動）
12月7日　第３代司令官・宮島俊信　陸将着任
22年1月21日　ハイチ国際緊急援助隊派遣（～２０１３年３月）
2月4日　国連ハイチ司令部要員派遣
2月6日　国連ハイチ派遣国際救援隊派遣
2月17日　ゴラン高原派遣輸送隊（29次隊）
8月18日　ゴラン高原派遣輸送隊（30次隊）
8月31日　パキスタン国際緊急援助隊派遣（～２０１０年10月）
9月27日　国連東ティモール統合ミッション派遣
11月9日　ＡＰＥＣ会議支援
23年2月17日　ゴラン高原派遣輸送隊（31次隊）
3月11日　東日本大震災に伴う災害派遣・原子力災害派遣
8月5日　第４代司令官・藤崎　護　陸将着任
8月20日　ゴラン高原派遣輸送隊（32次隊）
11月28日　国連南スーダンミッション司令部要員派遣
24年1月31日　第５代司令官・山本　洋　陸将着任
2月18日　ゴラン高原派遣輸送隊（33次隊）（～２０１３年１月）
2月19日　国連南スーダンミッション主力要員派遣（１次隊）
6月24日　国連南スーダンミッション主力要員派遣（２次隊）
7月26日　第５代司令官・日髙政広　陸将着任
12月3日　国連南スーダンミッション主力要員派遣（３次隊）
25年1月20日　ゴラン高原派遣輸送隊　隊旗返還式
3月15日　ハイチ国際緊急援助隊　隊旗返還式
3月26日　司令部・司令部付隊が朝霞駐屯地から座間駐屯地へ移駐

東日本大震災に伴う災害派遣

ジプチへの自衛隊派遣

国連ハイチ派遣国際救援隊

司令官メッセージ

中央即応集団司令官　陸将　日髙　政広

皆さん、こんにちは。中央即応集団司令官の日髙　陸将です。

中央即応集団は、国際平和協力活動や国内における各種事態に即応するため、平成19年３月に創隊されました。

中央即応集団は、約４２００名の隊員から編成されており、第１空挺団、第１ヘリコプター団を始めとする隷下部隊のその機能・能力は、陸上自衛隊で唯一かつ専門性の高い最大規模を誇ります。

国外では、現在、アフリカの南スーダン共和国において、道路等のインフラを整備する施設活動により、同国の国造り支援を行っています。また、同じアフリカのジブチ共和国においては、海上自衛隊が哨戒機をもって行っているアデン湾における海賊対処行動に基づく基地や航空機の警備等に任じています。これら２カ国に対し、隊員約４００名が派遣されており、今も灼熱の地、アフリカにおいて任務遂行中です。

国内においては、平成23年に発生した未曾有の東日本大震災への対応を始め、これまでに12件の災害派遣を実施してきました。

また、平成18年５月に定められた米軍再編のための日米ロードマップに基づき、本年３月にこれまで所在していた朝霞駐屯地から座間駐屯地へ移転を完了しました。

座間移転により、中央即応集団と在日米陸軍が同一地域に所在することで、意志疎通や情報交換等の緊密化を図る等、日米安保に関わる連携の強化が図られ、もって日米同盟が深化されるものです。

最後に、司令官として、本地域の皆様に親しまれ、信頼されることはもとより、いついかなる任務にも即応し、所命必遂の重責を果たすべく、隊員と共に練成を積み重ね、国民の負託に応える所存であります。今後とも中央即応集団に対するご理解とご支援の程宜しくお願いします。

更なる日米連携の強化 新たな日米同盟の段階へ！

新司令部庁舎にたなびく日米両国旗

日米同盟の証 両司令官の固い握手（右は、在日米陸軍司令官 ハリソン少将）

ハリソン少将メッセージ

中央即応集団司令部のキャンプ座間移転は日米安全保障体制において画期的な出来事であります。この移駐は長年の準備を経て、国民により選出されたリーダー、国家・地方公務員、仲間である自衛官の皆様による何時間にも及ぶ献身的なご尽力により実現の運びとなりました。この努力は自衛隊及び米国との関係において新たな基盤を構築し、今後生起するであろう数々の安全保障課題に取り組む上で不可欠な役割を果たすことでしょう。私共の司令部が同一場所に配置されることにより、陸上自衛隊及び在日米陸軍間の調整は更に促進され、協力関係はより強化されます。それは日本のみならずアジア太平洋地域における平和と安定の礎にもなります。この歴史的な出来事の一部になれることを誇りに思い、キャンプ座間コミュニティーは皆様の移駐を心より歓迎します。

移転の意義

アジア太平洋地域全体の平和と安定の一層の実現へ寄与

1 平素からの意志疎通・情報交換の緊密化
陸自と在日米陸軍が同地域に所在することにより、特にPKOや国際緊急援助活動等について平素からの意思疎通や情報交換を緊密にします。

2 日米共同訓練の充実に向けた段階的取組の促進
国際任務に関わる共同訓練や空挺部隊等に関する共同訓練を促進します。

3 防衛交流の促進
司令部間の相互研修や人的交流の促進により、在日米陸軍との関係強化を図ります。

在日米陸軍の将兵及び第４施設群 による歓迎行事
（在日米陸軍 第296音楽隊の先導による行進）

相模原市・座間市 地域とともに！（移転完了行事）

座間市による歓迎行事

協力団体・地元の方々による出迎え

庁舎お披露目における相模原市・座間市長を迎えてのテープカット